

報 告

The 5th International Symposium on Structure and Function of Roots  
August 31-September 4, 1998 Stara Lesna, Slovakia 報告

谷本英一

名古屋市立大・自然科学センター E-mail: tanimoto@nsc.nagoya-cu.ac.jp

このシンポジウムは、ほぼ5年ごとにスロバキアの科学アカデミー植物学研究所が中心となって開催している歴史の古い国際シンポジウムである。今回も5年前の第4回(1993年)と同じStara Lesnaの街はずれにあるアカデミーのホテル(Hotel Akademia)で開催された。当地はポーランドとの国境に近い山岳リゾート地の一角にあり、付近には登山やスキーのためのホテルが散在し、ローブウェイや山岳鉄道の駅にも近い。今回の出席登録者数(研究者)は17カ国76人で、家族・同伴者も加えると80人余りであった。前回は6月に開催され、150人くらいの参加者があったので今回は少し減ったが、研究者相互の交流を考えると、このくらいの数が適切かもしれない。アメリカやカナダの人たち数人が時期が悪くて出席できなかったらしい。また、日本からは筆者を含んで3名が参加した。国別の登録者数は次の通りであった。

スロバキア21、ロシア14、ドイツ8、チェコ7、イギリス6、ポーランド5、日本3、オランダ2、イタリア2、以下各1ギリシャ、ハンガリー、エジプト、インド、フランス、スイス、オーストリア、アメリカ。やはりロシアからの参加者が多いのはこの国の地理と歴史のためであろう。

今回のOrganizing Committeeは以下の構成であった(敬称略)。Chairperson: Otilia Gasparikova (Director of Institute of Botany, Slovak Academy of Sciences), Secretary: Igor Mistrik, (member) Frantisek Baluska, Milada Ciamporova, Katarina Dekankova, Jan Hudak\*, Jan Jasik\*, Timotej Jesko, Miroslava Luxova, Alexander Lux\*, Elena Masarovicova\* (\* Dept. Plant Physiology, Comenius University, 他は Institute of Botany, Slovak Academy of Sciences)

シンポジウムは、次のような内容で5日間にわたって進行した(途中1日昼間はExcursion)。

Opening: Otilia Gasparikova 他—特別講演2題: P. W. Barlow: Where did roots come from and where are they going?; L. Dolan: Developmental genetics of the Arabidopsis root epidermis.

一般講演とポスターセッション

Section 1: Structural and Molecular Aspects of Root Growth and Development (13題の発表)

Section 2: Absorption and Transport of Water (3題の発表)

Poster session: Section 1,3 and 4., Excursion, Poster session Section 2 and 5

Section 3: Absorption, Transport and Utilization of Ions (9題の発表)

Section 4: Root-Shoot Interactions (5題の発表)

Section 5: Roots under Stress Conditions (5題の発表)

伝統的に形態・構造に関する話題が多いが、今回は分子・遺伝の講演も組み込まれていた。成長・形態形成のsection 1とイオン吸収と移動のsection 3の発表が多かった。参加者が100名以下で、発表会場も食事も懇親会も全員が一堂に会するこの会議は、瞬く間にほとんどのメンバーが顔見知りとなりアットホームな雰囲気形成される。一室で行われるこの会議の長所はすべての講演を聴ける点にあるが、関心のないセッションは場外“勉強”ということになる。林間リゾート地にあるこの会場の周辺は山と緑に恵まれ、山岳鉄道やローブウェイを使えば山登りやハイキングにはすばらしい環境であるが、それ以外には小さな博物館と映画館があるだけである。このためか多くの参加者はごくまじめに会議に出席していた。前回同様、ホスト役のアカデミー・メンバーの運営に家族的な温かさがあり他の国際学会では味わえない雰囲気がある。女性研究者の割合が多いためか、はたまた、スロバキアの国民性の醸し出す雰囲気でしょうか。特にFarewell Partyでは、アカデミーやコメニウス大学のメンバーの親切なホスト役に、感激もひとしおで再会を約した。5年後の次回にはぜひ多くの方々の参加をお勧めしたい。